

8日土

# 全国アマモサミットプログラム

「海辺の自然再生・高校生サミット」は、「全国アマモサミット」プログラムの一部に高校生の部を設けて実施します。

第1部 09:00～開場

09:30～前年度開催予定地挨拶・大会旗引継ぎ式

09:40～開会式

10:00～基調講演①「ブルーカーボン生態系によるCO<sub>2</sub>吸収とその評価手法」

堀正和 (国立研究開発法人水産研究・教育機構 水産資源研究所)

10:30～基調講演②「ブルーカーボンの取組と今後の展開」

桑江朝比呂 (ジャパンプルーエコノミー技術研究組合)

11:00～研究・活動報告

- ①「むつ湾とアマモ場」(NPO法人あおもりみなとクラブ)
- ②「環境省藻場分布図作成調査と陸奥湾のアマモ場の概要」(アジア航測株式会社)
- ③「アマモとホタテの関係」(公益財団法人環境科学技術研究所)
- ④「平内町浅所による取組」(八戸工業大学)

11:50～休憩

12:40～高校生の部(海辺の自然再生・高校生サミット)趣旨説明

12:55～高校生発表①

13:25～質疑応答・コメント①

13:35～高校生発表②

14:05～質疑応答・コメント②

14:15～高校生発表③

14:45～質疑応答・コメント③

14:55～高校生発表④

15:25～質疑応答・コメント④

15:35～休憩

15:40～特別講演 小野寺 晃彦 (青森市長)

16:10～パネルディスカッション (基調講演者、NPO関係者、参加高校生ほか)

コーディネーター: 小野寺 晃彦 (青森市長)

17:00 第1部閉会

## 「海辺の自然再生・高校生サミット」ウェブサイト開設のお知らせ

このたび、高校生サミットの専用ウェブサイトを開設いたしました!当サイトでは、サミットの最新情報をご覧いただけるほか、参加高校のブログも掲載しています。次年度のサミットで発表を希望する高校のお申し込みも受け付けておりますので、是非ご覧ください。

<https://amamo-summit.net/>

主催 NPO 法人海辺つくり研究会 / NPO 法人共存の森ネットワーク  
協賛 一般財団法人セブン-イレブン記念財団 / マルハニチロ株式会社 助成 公益財団法人日本財団

この活動は、一般財団法人セブン-イレブン記念財団、マルハニチロ株式会社の協賛と公益財団法人日本財団の助成を受けて実施します



9日日

09:00～開場

09:30～第2部開会

09:35～むつ湾の絵コンクール表彰式

10:05～記念講演① 中井 徳太郎 (環境省 環境事務次官)

10:40～記念講演② 木村 尚 (NPO法人海辺つくり研究会)

11:10～活動報告

一般財団法人セブン-イレブン記念財団

11:25～サミット総括/大会宣言

11:45～次年度開催地講演(千葉県館山市)引継ぎ式

12:00 閉会

## 活動アドバイザー

木村 尚 きむら・たかし

NPO 法人海辺つくり研究会 理事・事務局長

1956年生まれ。東海大学海洋学部卒業。NPO法人海辺つくり研究会理事・事務局長の他、東京湾を子どもたちが泳げる豊かで美しい海にしたいと考え、東京湾の環境やまちづくりに関連する多数の市民活動にも協力している。主な著書は『都会の里海・東京湾』、『森里川海をつなぐ自然再生』(共著)等。現在、日本テレビ系列「ザ! 鉄腕! DASH!! - DASH 海岸 -」にレギュラー出演中。

古川 恵太 ふるかわ・けいた

NPO 法人海辺つくり研究会 理事長

1963年生まれ。早稲田大学大学院建設工学科修了後、運輸省港湾技術研究所(1988-2013年)、豪州海洋科学研究所(1994-96年)、海洋政策研究財団(現・笹川平和財団海洋政策研究所:2013-2018年)を経て、2019年よりNPO法人海辺つくり研究会理事長。徳島大学客員教授。専門は沿岸生態系の保全・再生・創出、沿岸域総合管理、市民調査・体験活動等。

岩井 克巳 いわい・かつみ

NPO法人大阪湾沿岸域環境創造研究センター専務理事

1965年生まれ。東海大学海洋学部卒業。(株)MACs 代表取締役、日本ミックニヤ(株)専務取締役。阪南市を中心とした大阪府南部の泉州地域で、アマモ場再生を核とした海洋教育、カキ小屋を核とした浜の活力再生を指導・実践。NPO法人大阪湾沿岸域環境創造研究センター専務理事の他、NPO法人環境教育技術振興会理事、大阪湾見守りネット理事、NPO法人海辺つくり研究会監事を務める。

# 2021 海辺の自然再生 高校生サミット

本年度は、北海道から九州まで、全国の11校が日頃の研究や活動成果を報告します。



2022年 1月8日(土) 12:40~15:35 ※全国アマモサミット(8日・9日開催)内  
会場: 青森市文化観光交流施設 ねぶたの家「ワ・ラッセ」



参加費無料 / Youtubeによるオンライン同時配信あり

参加申し込みフォームよりお申し込み下さい。  
<https://ssl.form-mailer.jp/fms/1a706ed5711643>

活動アドバイザー

木村 尚

NPO 法人 海辺つくり研究会 理事・事務局長

古川 恵太

NPO 法人 海辺つくり研究会 理事長

岩井 克巳

NPO法人大阪湾沿岸域環境創造研究センター 専務理事

私たちがサミットの開催を応援しています

アマモは、日本各地の砂泥地に生息する海草の一種で、その群落によって形成されるアマモ場は「海のゆりかご」ともいわれるように、魚の産卵や稚魚の成育の場として重要でした。しかし、経済成長に伴う沿岸海域の開発などにより、アマモ場は急速に失われました。近年、各地でアマモ場の再生活動が行われるようになりましたが、今後もさらなる活動の推進が必要です。また、海辺の自然再生には、藻場・干潟・サンゴ礁など、その地の生態系に応じて、自然・社会両方の側面からの多様な試みが必要です。「海辺の自然再生・高校生サミット」では、全国の高校生が、アマモ場の再生活動をはじめとする海辺の自然再生活動の成果を発表し、意見交換を行っています。本年度のサミットは、青森市で開催する「全国アマモサミット」(全国アマモサミット2021inあおもり実行委員会主催)のプログラムの一部に「高校生の部」を設けて開催します。オンラインでも視聴いただけますので、どうぞご参加ください。

Youtube オンラインライブ配信はこちら

<https://www.youtube.com/channel/UCOiwPY3251F4qMeMgvpMA>



【お問い合わせ】 海辺の自然再生・高校生サミット事務局 〒156-0043 東京都世田谷区松原1-11-26 コスモリヴェール松原301 (NPO 法人共存の森ネットワーク内) TEL:03-6432-6580 FAX:03-6432-6590 e-mail:mori@kyouzon.org



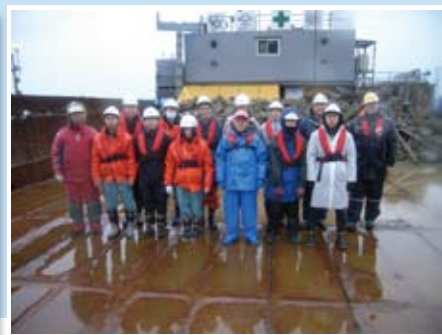
### 北海道函館水産 高等学校

私たちはアマモの調査活動として、カメラによるモニタリングを行っています。今年度はGPSを携帯することで、大まかな面積を測定することができました。また、アマモの減少が、水質の変化によるものである可能性を考え、上流の川から海までのCODを測定する調査を行いました。アマモ場を守るための海岸清掃活動も続けて行っています。



### 青森県立 青森工業高等学校

青森県の陸奥湾は皆さんがご存知のように、全国でも有数のアマモ場が広がっており、私たちもその海の恩恵を受けています。近年、そのアマモ場が減少しつつある中、企業や漁協の方々に協力してもらいながら、共にアマモ場の維持・造成のために、竜宮礁を野内池先に設置するなど様々な取り組みを行っています。



### 宮城県 水産高等学校

アマモの生息場所等の確認をしてきた昨年度ですが、本年度はアマモに限らず、「海藻の活用方法について」の学習を進めています。ホンダワラやワカメ、コンブ、もちろんアマモも様々な活用方法の模索や調査をしています。また、SDGsを意識しながら持続可能な社会を目指しての取り組みを心掛けています。



### 山形県立 加茂水産高等学校

本校は藻場保全と造成を、漁業者、鶴岡市、山形県水産研究所と共に行ってきました。ここでは、食害生物駆除と並行して、独自に藻場のモニタリング技術の向上に取り組んでいます。令和元年度にドローンを導入したことで、空撮によるモニタリングで表現の幅が広がり、現在も技術の向上に努めています。



### 神奈川県立 海洋科学高等学校

昨年発表したカワハギ種苗生産から海藻の重要性を再認識しました。そこで県内で深刻化している磯焼けから脱却し、藻場再生に向けカジメ培養を始めました。また2016年より本校内でアマモの生長に対する二価鉄イオンの効果を調べながら、株を増やす取り組みを行っています。漁協等とアマモを植える試みも始まりました。



### 福井県立 若狭高等学校

平成16年より先輩たちの意見から、かつて湾内に群生していたアマモを再生する活動を始めました。具体的には、定植活動や研究活動、啓発活動を行ってきました。今年度の取り組みとしては、先輩方が育てたアマモを水槽から海に移植しました。今後は、定期的に移植したアマモを経過観察します。そして、アマモで地域の環境改善に取り組んでいきたいです。



## 高校生サミット発表校の紹介

本年度は北海道から九州まで、全国11校が日頃の研究や活動成果を発表します。



### 関西大学 北陽高等学校

2017年度より、アマモ場再生活動と異校種間連携プログラムの構築に挑戦しています。また、2019年度からは保健の授業内で海洋問題が様々な環境問題と繋がっていることを理解し、SDGs14「海の豊かさを守ろう」の目標を達成するために、『100年後の海へ、わたしたちにできること』を探究しています。



### 岡山学芸館 高等学校

里海の聖地と呼ばれる岡山県備前市日生町で、2017年から海洋研究に取り組んでいます。1年次にアマモ場再生活動や聞き書きに取り組み、2年次で牡蠣養殖体験や海洋教材作成、干潟をフィールドとした課題研究を行っています。今年度は、干潟における大規模人為攪乱の影響調査や物質生産評価、産業廃棄物である牡蠣殻を活用したベントス量回復を目指しています。



### 福岡県立 伝習館高等学校

私たちは2015年から柳川堀割をニホンウナギのサンクチュアリにするための特別採捕と標識放流を行っています。柳川の活動は、歴史資産を使ったウナギの保護です。そこで、2019年から飯江川流域の農業とウナギをはじめとした生物多様性の共存をめざし、環境を保全することでウナギが育つ川にするための活動を始めました。



### 福岡工業大学附属 城東高等学校

私たちは、高校の近くにある和白干潟や博多湾を中心に活動しています。多くの生き物が住む干潟の魅力を伝えるため、周辺に住む小・中学生を対象に観察会を行い、干潟の清掃活動を行って環境保全意識の向上を図りました。また、博多湾内のアマモが生えている場所の調査やアマモの発芽条件の模索、より良い移植場所の検討を行いました。



### 熊本県立 芦北高等学校

19年前、地元の芦北漁協より依頼を受け、アマモ場造成活動を始めました。活動当初0.25haのアマモ場は、長年の活動成果により、7.5haまで拡大に成功しました。しかし、令和2年7月熊本豪雨災害によって約5haのアマモ場が消失。現在私たちは、消失したアマモ場の早期再生を目標に、独自で考案した造成方法に取り組んでいます。

